

日本維新の会の馬場伸幸代表による「第一国民党」発言が波紋を広げている。次期衆院選で野党第一党に躍進し、自民との保守一大政党を目指す持論を強調する意図だったが、補完勢力だと自ら認めたと皮肉も責め上る。「自民は勢いを増す維新に支持を奪われかねないと警戒を強める。

馬場氏 ネット番組で発言

▽自民馬場派

「第一自民、第一自民でいい。国家国民のために改革を競い合えば、政治は良いとなる」。馬場氏の発言は二十一日のインターネット番組で飛び出した。出演者の「立憲民主党からすれば、維新は第二自民のようない存在」との指摘に呼応した形だった。「立民がいても日本は何も良くならない」「共産党は日本からなくなつたらいい」と存在意義を否定する発言もある。

やり玉に挙がった野党は「自民が好きで好きで仕方がない」(立民の岡田克也幹事長)、「自民党馬場派だと認めた」(共産の小池晃書記局長)と一斉に批判。馬場氏は「十六日、記者団に真意を問われ「保守の大政党化という意味合いで分かりやすく述べた。第一自民に党名を変えることは絶対にない」と説明に追われた。

▽責任政党

維新は「改革保守」を旗印に掲げ、自民の「は

「維新は第2自民」広がる波紋



記者団の取材に応じる田本維新の会の馬場代表

26日午後、東京都内で

「現状を維持する保守」と

区別し、違いを際立たせようとしているが、「自民別動隊」「自民垂流」とやむされてきた。先の通常国会では改正入管難民法やSG要法案の修正で命懸け、賛成に回った。自民出身議員も少なくなく、馬場氏も自民市議だった。

藤田文武幹事長は記者会見で「間違つて受け止められたら嫌だ。自民という言葉は「責任ある政権政党」としてレトリック(言に回し)で使つていい」と説明。補完勢力との見方を打ち消した。

「共産なくなれ」発言 撤回せず

日本維新の会の馬場伸幸代表は二十六日、共産党を「日本からなくなつたらいい」政党だとした自身の発言の撤回を拒否した。東京都内で記者団に「政治家として信念を持って発言している。謝罪や撤回をする気はない」と述べた。共産は強く反発し、重ねて撤回を要求した。他党からは「異常な発言」との声も上がった。

馬場氏は、公安調査庁が共産を破壊活動防止法に基づく調査対象団体としていると指摘。「普通の政党ではない。政府も危険な政党とみている」と強調した。政府は六月、共産について「暴力革命の方針に変更はないものと認識している」との答弁書を閣議決定してくる。

▽やつこじ

維新は四月の衆院和歌山

1区補欠選挙で新人が自民に一番の改革政党でなければならない」と繰り返すようになった。現状維持派と指定席となっている。逆に自民の支持率は下落傾向で、関西地方選出の若手衆院議員は「勢いは完全に維新に負けている」と語る。遠藤利明総務会長も二十六日の講演で警戒感をあらわした。「政策面も似ていて、根づきはかかる部分がある。身を切る改革の主張も聞こえは良い。やりにくい相手だ」

野党は批判 自民は警戒

共産の小池晃書記局長は国会内に維新控室を訪ね、抗議文を提出。記者会見し「政治闘争の論争」と、存在そのものの否定は本質的に異なる。改めて撤回を求める」と訴えた。立憲民主党の衆健太代表も福岡市内で記者団に「異常な発言で、維新内から批判が出てしかるべきだ。それがないなら非常に怖い政党だ」と疑問視した。

これに対し、維新の藤田文武幹事長は会見で「撤回の必要はない」と馬場氏を擁護した。

馬場氏は二十一日のインターネット番組で、共産について「世の中におい得ない空想の世界をつづっている」と主張。なくなつたらいい政党だと言及し